

『 気軽・充実・役立つ 』

後志教育研修センターは後志管内20市町村が管内の教職員、社会教育担当者等の資質・能力の向上を目指した研修講座事業等を協働で実施することを目的として設置されたものであります。昭和50年に発足し、令和2年度で設立45年目を迎えます。この度は、北海道教育庁後志教育局をはじめ、各市町村教育委員会、各教育関係機関や研究団体のご支援とご協力により、本年度の講座開講の体制を整えることができました。

本年度の研修事業は日常実践に役立つ研修センターを標榜し、次代を担う子どもたちが未来社会を切り拓くことができるように、学校現場との連携を一層密にした授業改善を促す研修講座となるよう策定しました。全ての講座の中で、本年度より全面実施される新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」のもと、改訂の大きなテーマである「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。具体的には「何を知っているか」から「どのように問題解決を成し遂げていくか」を支える資質・能力を育成する学びの質的転換を目指した講座内容となるよう努めてまいります。

昨年度の研修講座を振り返りますと、受講者の姿勢が非常に前向きであり、参加して勉強になったという声が数多くあり、教職員の研修に対する意識の高まりが強く感じられました。特に、注目したいのは、「研修報告を書き、全職員に還元していく」「新しい人間関係ができた。人脈は財産」「本当に困ったことを聞くことができた」「勇気が湧いてきて、明日からの意欲が出てきた」という声でした。結果的に受講率が管内教職員全体の凡そ55%になりました。

本年度の研修講座に向けて開催された1月末の講師団会議では、『教学半』と『子ども心の扉は内側に鍵がある』という2つのお話しをしました。講師陣の真剣な眼差しがとても印象的で、新年度の研修講座は質の高さが期待できると実感しました。本年度の研修講座の特徴を幾つか挙げてみます。

1. 「気軽に参加できる研修講座」

外部講師による公開講義や学校での授業公開を多くし、気軽にそのコマだけ受講できるよう工夫をしました。

2. 「充実感を味わえる研修講座」

昨年度から演習を取り入れた参加型の研修やワークショップ型研究協議の工夫をしていますが、本年度は更に「小中連携」についての研修内容を盛り込みました。

最後になりますが、講師陣の皆様には、今日的な課題を解決すべく、日常の授業実践に生かしていくことのできる事例を周到に準備していただいたことに深く感謝申し上げます。センター職員一同、本年度もより多くの教育関係者の皆様が受講されるのをお待ちしております。

令和2年4月

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠